

近世時

入傳

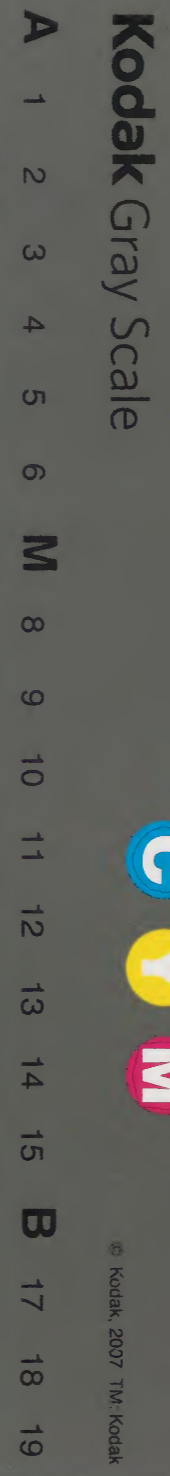
太政官文庫			
七	和	書	門
一六〇	の	一三	類
五	の	一三	類
册	架	函	號

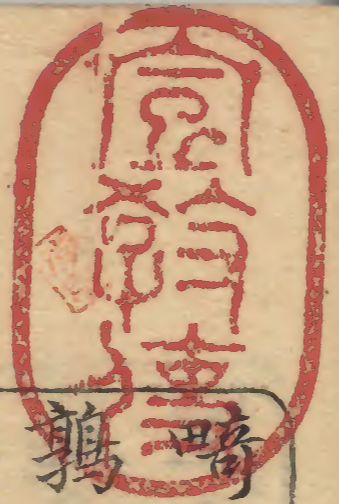
共五本
改廿七
百八十八号

149			
内閣文庫			
五	七	和	書
八	六〇	の	一三
九	の	一三	類
架	册	函	號
内第 書第 五共			

内閣文庫	
番號	和 7603
冊數	9 (1)
函號	158 149

158-149



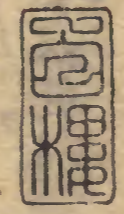


文庫部印

圖書部印

人傳序

鷄居穀食以頤志。播東竈北。不與藪澤二
 其趣。而不以高逸自處。推拍輓斷。與物宛
 轉。肆情坦率。不自檢括。而非所謂任誕也。
 冥外以護內。雖不為同異。亦有所不為。而
 非所謂狷介也。或才藝絕人。而不求售於
 世。土木形骸。襟野如愚。或經術吏才。取仕
 於封君。而行藏不拘。以規矩夫。謂之獨行。



乎曰非也。稱之卓行乎曰非也。其人固非
四科之屬。其行不可以一端指名。不得已
而強題之曰畸人。畸者何曰畸者奇也。其
間有儒而奇者。有禪而奇者。有武弁而醫
流。而詩歌書畫雜伎家。而奇者。要皆為一
奇。所掩人不復知。本分為何人。故概以畸
人目之。云態生世純好奇之士也。從近世
上邇。勝國得所謂畸人者。數十負。狀而

序一

傳之自歎于聞見。不廣詢諸伴。蒿蹊氏。蒿
蹊氏曰。余之素志也。余既衰。以至若干人。
請合而一之。態生善畫。乃真搜貌神。其於
服飾器用。皆原其代。所尚而一筆不苟。
下。蒿蹊氏以國語為文。宏贍簡遠。妙盡情
態。頗似臨川王形容晉人。夫其人既以畸
稱之。固弗求聞達於當時。豈復屑乎。自
圖不朽者耶。大約羊代浸遠。聲迹湮晦者。

十七八。二子其奚自而得之也。蓋就其官地鄉閭跡之。或話之。身孫遺友。或得片之。隻事于敗冊蠹簡。百方蒐羅。鑽燧屢改。而後就緒。且其事必覈實。其之必有根。至於好事者。自後附益。增長者。概乎。每取焉。視之。彼顯人名流之宗系。言行。粲然。可臚列者。則勞逸為何如也。一日。高蹊氏以首簡授余。謁序。余曰。此範世矯俗之書也。請急。

序二

傳之。或雜曰。若人之畸也。是惟性分所至。固非學而可企矣。詎可以為範乎。曰。不然。以余觀之。凡此諸人。率性而動。名求其志。其迹雖或失中行乎。至乎其不屑於當世之名利。則一揆耳。故雷霆之琴。火成之鏐。自然成趣。非待繩削而然也。夫絳菼文綵。足以黼黻治具者。一技一能。通乎精微之蘊者。幅巾麈尾。鉅。儒。談性理而拆天。

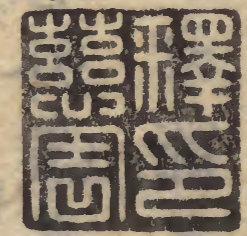
人之際者。曲柔拄杖。講經論據。巨刺者。世
固不立其人。而大抵與古之聖賢其骨格
終不相類者。何也。唯名之與利為之崇也。
嗚乎。此數者。皆人之所甚難。能而遺名利。
之難。又有甚焉。則名利之累人也。豈特焚
車攫金之類而已哉。莊周有之曰。彼其所
殉仁義也。則俗謂之君子。其所殉貨財也。
則俗謂之小人。有味乎其言之也。今觀傳

序三

中之人。其於古之人也。未知如何。然已有
典刑存焉。故其流風餘韻。猶足以使夫貪
婪躁進之士。一披其卷。赧然自省。幡然易
操矣。謂之範世矯俗之書。不為過也。若
夫掩其貌。蠟其言。外遺名利。而內以為名
利之鉤者。乃此書之罪人也。寶鑑既懸。而
妖魅無遁形焉。序而勸其傳。不亦宜乎。

寶鑑

寬政二年歲集庚戌春三月六日如散納
題慈周叙於峨阜無著菴



觀藝道人永忠原書



序四

目錄

第一卷

中江藤樹

附蕃山氏

貝原益軒

僧 挑水

僧 無能

長山宵子

甲斐栗子

美狹綱子

推者七兵衛妻
同 久兵衛妻

伊藤介亭

宮 筠圃

駿府義奴

木揚利兵衛

河内清七

大和保麻子

近江新六

龜田久兵衛

第二卷

三宅尚齋 附妻女

米屋与右衛門

寺井玄溪

小野与秀和妻 附秀和弟秀和歌

遊女大橋

石野權兵衛 同市兵衛

賣茶翁

北村篤所

岡 固防守

僧 鐵眼

内藤平左衛門

大石氏僕

尼 破鏡 附曲年

遊女某尼

隱士石卧

江村專齋 附別齋

西生永濟

青木長廣

僧 別首座

中倉忠宣 附山中寺人

第三卷

隱士長流

荷田春滿 附性在滿 門人加養真淵

佐田儀兵衛

山科農丈 附性中五衣

加嶋宗叔

長崎餓人

僧 圓空 附僧俊乘

僧 契冲 附介并信剛 性田忠齋

挑山隱者 附与倉街乞丐

子車翁

金蘭齋

文展狂女

相者龍袋

森金老

僧佛行坊

僧涌蓮

弟四卷

柳澤湛園

求大雅僧

手嶋堵庵

北村祐庵

土肥二三

古田見良 附僧覺芝
二庵 佃房

僧日初

池大雅 附妻女

高橋圖南 附妻女

久淵守景

廣澤長孝

僧似雲

矢部正子

室町宗甫

近江狂僧

僧惠潭

祇園梶子 附百合子

惟然坊

表太

第五卷

五河天民 附了叔亨安

戸田旭山

僧文竹

井上通子

北山友松子

隱家茂睦

安藤年山 附朴等

有馬涼及

是とて女氏と銀の復又日とて旅十枚と
得くもてて未だ實譽家の借はしむるに
其人より其賦するぬや、其後とてりて
と二十枚を要す、格はは、
とれぬ女氏愛しむるに、
言見魂、
お、
先づは先づして、
示す、
物交り、
先づは先づして、

かゝりて、
旅の志、
の件とて、
此本の成信、
福發無起す、
の解とて、
ゆゑに、
す、故、
の、
つ、
ま、

晴久

三

よ神の御くまにあらはるる損益の御... 表書表の御
... されしは... されしは... されしは...
... されしは... されしは... されしは...

尚と奉りしは... 同樹あり... 彼と大是と...
... されしは... されしは... されしは...

僧梅水 此傳ハ西ノ本爲著スル一書也
此傳ハ西ノ本爲著スル一書也

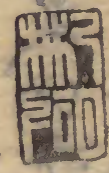
僧梅水... 雲開... 筑波... 舟... 舟... 舟...
... されしは... されしは... されしは...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
... されしは... されしは... されしは...
... されしは... されしは... されしは...

抱はむね動とてけりるふね船原と取て子さふ
 して村民お人お経とあり後見とて利まこ一人集て
 帯をもちまゆ柳とらり既りてあまを集りそむね
 そむねむねむねむねむねむねむねむねむねむね
 そむねむねむねむねむねむねむねむねむねむね
 て教と婦のいとよはね先生ののり地すんん

 伊藤小亭
 舟亭作を氏洋長衛家女流長通名所記の巻仁林
 之生れ皆之よこ中留質島あまよさく喜小伝たり小春
 友あつたまり、母氏雷と懼るよらんよこねふき汽集く
 漬漬の半といふことや早ねのあやみお家地
 川よまると夏日のあまのさむくはてはあまのあま





向東疎拙之良諫身之竹在傍也佇中
 庭幽苦抱當年五子猷
 回風一陣冷 卷戰生六率 落多氣
 空以寂寂然 可見來客 矣特續

考考考 引第一神題 風林 宮子



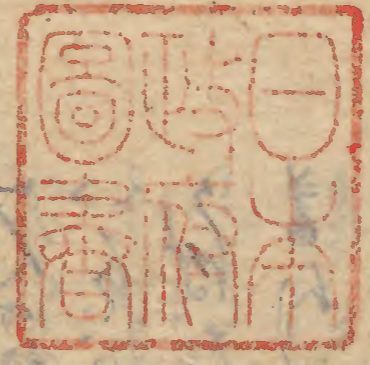
Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense cursive script.

東ノ本ノ一

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense cursive script.

田ノ...

元々長閑な出巻のり質多ふとてたぬり
はよふとく〜しつたが人々の手からぬり
〜びて〜た〜本〜ぬり〜ぬり〜ぬり〜ぬり
〜ぬり〜ぬり〜ぬり〜ぬり〜ぬり〜ぬり
子々拾まの筆小あつた



辨人瑞葉〜〜〜

